

# SIP4D-ZIP

## 災害情報共有のための共通データフレームワーク規格の開発

防災情報研究部門・総合防災情報センター 花島誠人

### Point

- SIP4Dと防災情報システムの接続における  
インタフェース仕様の国内標準化
- SIP4D以外のシステム間の災害情報共有においても  
共通フレームワークとして利用可能
- 国際標準(ISO)として提案予定

### 概要

”SIP4D-ZIP”は、災害情報を共有するために必要な構成要素(情報種別, データフォーマット, メタデータ, プレゼンテーション・スタイル等)について統一した記述様式を定めた規格である。この規格を用いることによって、災害現場の被害情報, 住民の避難状況, インフラの被災情報等の災害関連情報の共有を迅速化することを目的としている。データフレームワークとは、システム間でデータをやりとりするためのルール・手順を体系的に整理した“枠組”のことである。このデータフレームワークを正しく解釈する仕組みを情報システムに組み込むことによって、SIP4D-ZIP規格の範囲内で柔軟なデータの共有が可能になる。

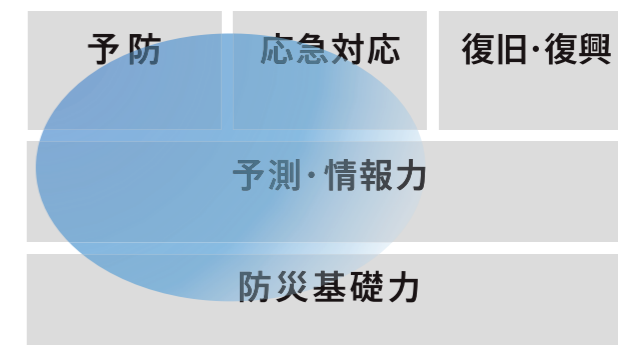
過去の大規模な災害対応においては、情報を電子データ化できたとしても、システムごとに読み込めるデータ形式が異なったり、データの意味を記述する共通的な形式がなかったり、といった事情により貴重な情報が十分に活用されないことがあった。

SIP4D-ZIPでは、このような状況を改善するために、事前に内容を取り決めていないデータであってもシステム間で受渡しが可能になるように規格に準拠したデータを生成(エン

### 今後の展望・方向性

- 2023年初頭に日本規格協会よりJSA規格として発行予定
- 都道府県情報システムとSIP4Dのシステム接続における標準仕様として普及を促進
- ITベンダー等へ規格周知および説明実施
- 規格認証機関の設置に向けて検討開始
- 災害データ共有のための国際標準としてISOへの提案を推進

### 研究の領域



コード)・解釈(デコード)する機能を設計するために必要となる仕様を定めている。

SIP4D-ZIPによって共有する情報の内容については、情報提供元組織と利活用組織間との協議によって任意に決めることができるが、本規格では、SIP4D-ZIPフレームワークを用いたデータ共有の実装モデルとして、“SIP4D-ZIP災害対応支援モデル”をあわせて規定している。

情報提供元システム又は利活用側システムの開発者がこの規格を使用することで、滞りなく災害情報の相互共有が可能になり、災害対応におけるDXを促進し、来るべき国難級の災害に対する国家レジリエンスの強化に資することを旨とするものである。

